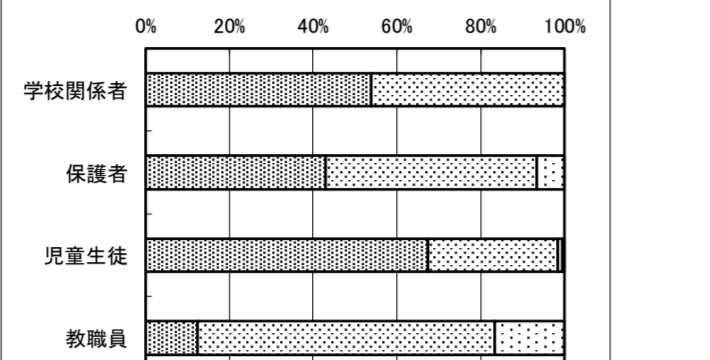
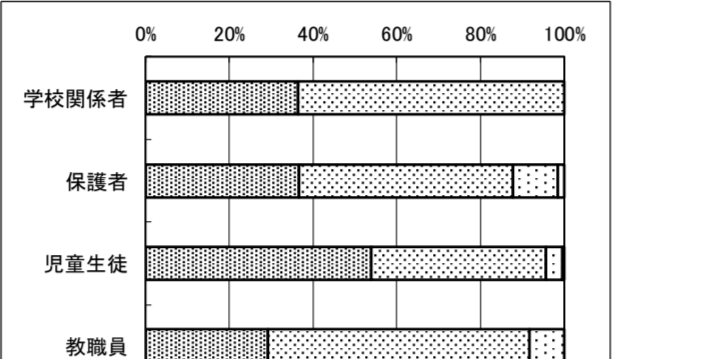
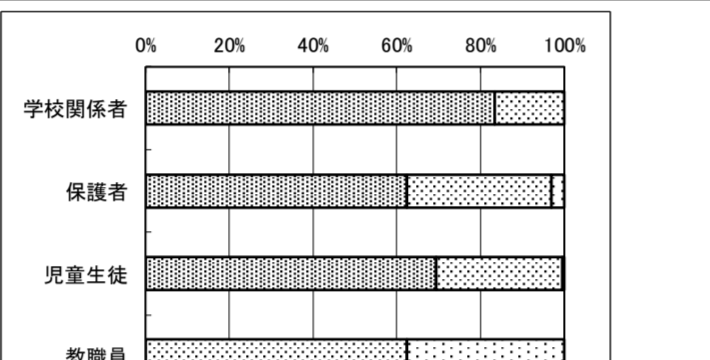
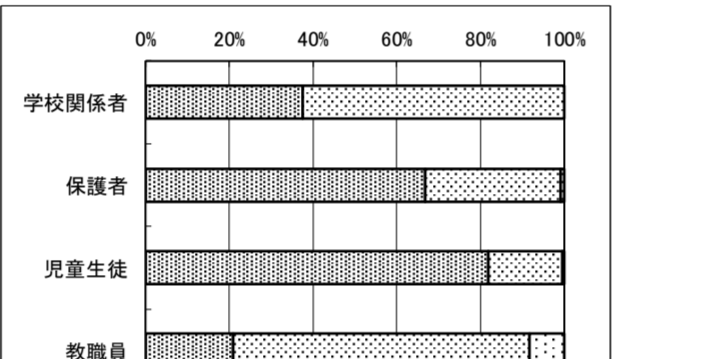


令和2年度下期 学校評価書 稜南中学校 No.1

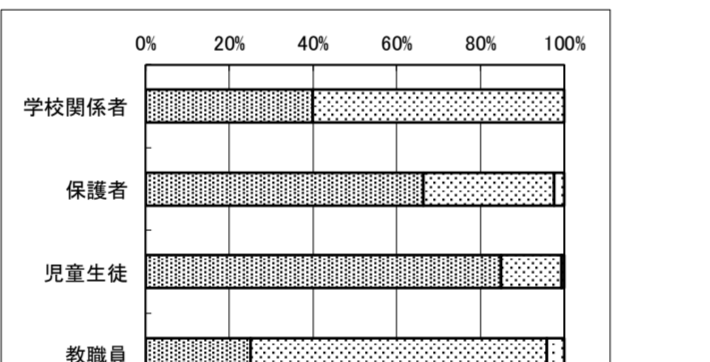
1 家族地域へのあいさつ等	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)()内は上期
生徒は、家族や地域の方に対するあいさつや場に応じた言葉遣いができている。	○生徒が98%(98%)、保護者が93%(94%)、学校関係者が100%(93%)と家族や地域の方にあいさつを行っている。○教職員が83%(75%)となっており、評価が向上している。
 <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>学校関係者</p> <p>保護者</p> <p>児童生徒</p> <p>教職員</p>	◇概ね地域でのあいさつや場に応じた言葉遣いができているため、このことを誇りにできるような機会を捉えて自覚させていくことが必要である。

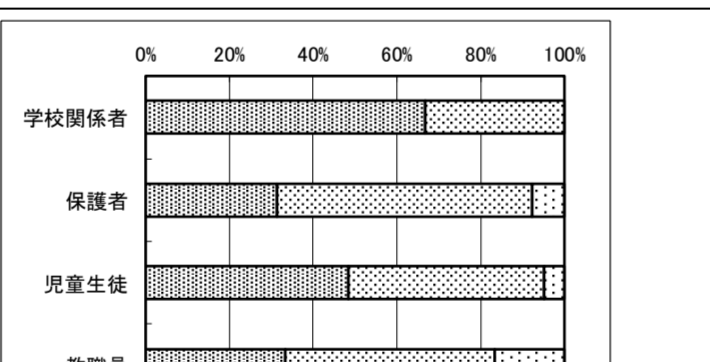
2 稜南中の誇り	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)
生徒は、稜南中に誇りを持っている。	○生徒が96%(92%)、保護者が88%(89%)、学校関係者が100%(92%)と生徒は稜南中に誇りを持っていると回答。
 <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>学校関係者</p> <p>保護者</p> <p>児童生徒</p> <p>教職員</p>	□教職員は、92%(92%)となっており、R1上期と比較して同じ数値を示した。◇「稜南プライドを持ち、信頼される生徒の育成」に向けて、生徒会活動(各委員会活動)や学校行事で生徒が主体となって取り組む活動を設定するなどして生徒の意識をさらに高められるとよい。

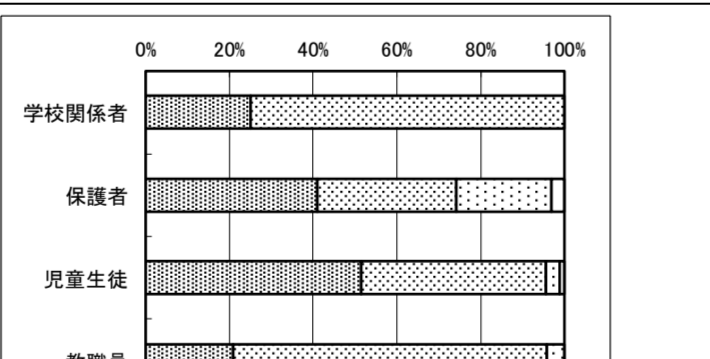
3 交通ルールを守り登下校	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)
生徒は、交通ルールを守り登下校できている。	○生徒が100%(98%)、保護者が97%(97%)、学校関係者が100%(100%)と生徒は交通ルールを守り登下校できていると回答。
 <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>学校関係者</p> <p>保護者</p> <p>児童生徒</p> <p>教職員</p>	▲教職員は、(63%)63%となっており、「不十分な部分もある」という評価である。◇登校時もそうだが、より集団となる下校時の交通指導については、地域の方から苦情をいただいた事もあり、教職員の評価が低いものになっていると考えられる。学校の指導に加えて生徒会を活用した自治的意識を高める取組を行ってほしい。

4 自分の命や人権	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)
生徒は、自分の命や人権を大切にしている。	○生徒が100%(99%)、保護者が99%(98%)、学校関係者が100%(100%)と生徒は自分の命や人権を大切にしていると回答。
 <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>学校関係者</p> <p>保護者</p> <p>児童生徒</p> <p>教職員</p>	▲教職員は、92%(100%)となっている。◇ソーシャルスキルトレーニングに学校総体として取り組んできたが「人権感覚」に欠ける言動をとる生徒もまだ少なくない。SNSに関する指導も充実させていく必要がある。ソーシャルスキルトレーニングと関連付けた手立てを行っていく。

令和2年度下期 学校評価書 稜南中学校 No.2

5 友達と仲良く	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)
生徒は、友達と仲良く生活することができている。	○生徒が99%(98%)、保護者が98%(96%)、学校関係者が100%(100%)と生徒は友達と仲良く生活することができていると回答。
 <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>学校関係者</p> <p>保護者</p> <p>児童生徒</p> <p>教職員</p>	□教職員は、96%(96%)となっており、上期との変化は見られない。◇概ね友達と仲良く過ごしている現状が伺える。ソーシャルスキルトレーニングの効果も大きく関連しているといえる。今後も継続した取組を行ってほしい。

6 環境づくり	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)
生徒は、美しい学校づくりに努めている。	○生徒が95%(93%)、保護者が(92%)88%、学校関係者が100%(100%)と生徒は美しい学校づくりに努めていると回答。
 <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>学校関係者</p> <p>保護者</p> <p>児童生徒</p> <p>教職員</p>	○教職員は、83%(75%)と数値が上昇した。◇担当の先生の方で、掃除前のすばやい移動や無言清掃、掃除に関する標語の掲示等環境整備に関する取組の成果が現れてきている。今後は保護者等の協力も得ながら美しい学校環境の維持に努めていきたい。

7 学習への取り組み	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)
生徒は、学校での学習に励んでいる。	○生徒が96%(88%)、保護者が74%(79%)、学校関係者が100%(89%)と生徒は学校での学習に励んでいると回答。
 <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>学校関係者</p> <p>保護者</p> <p>児童生徒</p> <p>教職員</p>	▲保護者評価が上期と比べて5%低下している。▲教職員は、83%(88%)と5%低下している。◇熊本県学力調査の結果を踏まえ、今後課題解決に向けた取組を学校総体で行っていく必要がある。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点たつた授業改善や家庭と連携した家庭学習の充実にも取り組んでいく必要がある。

8	学習の理解	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)															
<p>生徒は、授業がよく分かっている。</p> <table border="1"> <caption>学習の理解の割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>評価4 (%)</th> <th>評価3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係者</td> <td>84</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>66</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>100</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>79</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	評価4 (%)	評価3 (%)	学校関係者	84	16	保護者	66	34	児童生徒	100	0	教職員	79	21
対象者	評価4 (%)	評価3 (%)															
学校関係者	84	16															
保護者	66	34															
児童生徒	100	0															
教職員	79	21															
<p>○生徒が84%(85%)、保護者が66%(61%)、学校関係者が100%(50%)が生徒は授業がよくわかっていると回答。 ▲教職員は、79%(83%)であり、上期と比較して4%低下している。 ◇教職員の評価が低下している。今後「個別最適化の学び」を意識した個に応じた指導の工夫改善が求められる。校内研修の充実を図りながら理解を深める手立てについて更なる検討が必要であると考えます。</p>																	

令和2年度下期 学校評価書	稜南中学校	No.3
---------------	-------	------

9	家庭学習(予習復習)	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)															
<p>生徒は、家庭学習(予習や復習)に取り組んでいる。</p> <table border="1"> <caption>家庭学習の割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>評価4 (%)</th> <th>評価3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係者</td> <td>79</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>65</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>100</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>75</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	評価4 (%)	評価3 (%)	学校関係者	79	21	保護者	65	35	児童生徒	100	0	教職員	75	25
対象者	評価4 (%)	評価3 (%)															
学校関係者	79	21															
保護者	65	35															
児童生徒	100	0															
教職員	75	25															
<p>○生徒が79%(77%)、保護者が65%(59%)、学校関係者が100%(75%)と生徒は家庭学習に取り組んでいると回答。保護者評価では上期と比べて6%の向上である。 ▲教職員は、75%(79%)であり上期と比べて4%低下している。 ◇保護者の評価が一番低くなっている。ご自分のお子さんの取組の様子からそのように判断された結果と思われる。今後「授業」と「家庭学習」をつなぐ課題提示の在り方や「自学タイム」の一層の充実を図っていく必要がある。</p>																	

10	読書	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)															
<p>生徒は、よく本を読んでいる。</p> <table border="1"> <caption>読書の割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>評価4 (%)</th> <th>評価3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係者</td> <td>57</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>38</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>67</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	評価4 (%)	評価3 (%)	学校関係者	57	43	保護者	38	62	児童生徒	67	33	教職員	50	50
対象者	評価4 (%)	評価3 (%)															
学校関係者	57	43															
保護者	38	62															
児童生徒	67	33															
教職員	50	50															
<p>○生徒が57%(45%)、保護者が38%(32%)、学校関係者が67%(67%)が生徒は、よく本を読んでいると回答。 ▲教職員は、50%(61%)であり、上期と比較して11%低下している ◇朝自習の取組の成果がでてきているが、デジタル化時代での活字離れにどう対応するか難しい課題である。現状では学校としての取組で、活字に触れさせる機会を多くして読書習慣につなげていくことが重要である。今後も朝自習を活用した読書習慣の形成を継続していきたい。</p>																	

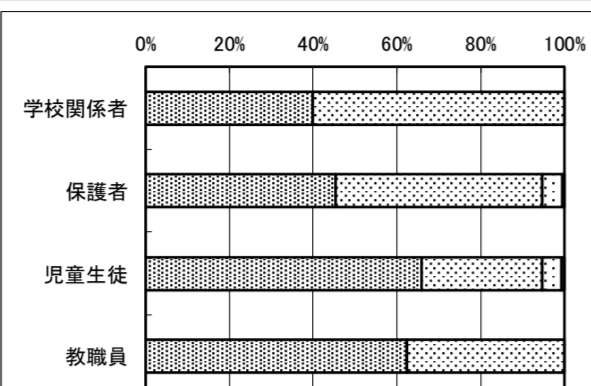
11	食に関して	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)															
<p>生徒は、給食や家庭での食事は好き嫌がなく何でも食べている。</p> <table border="1"> <caption>食に関する割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>評価4 (%)</th> <th>評価3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係者</td> <td>88</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>76</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>83</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>79</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	評価4 (%)	評価3 (%)	学校関係者	88	12	保護者	76	24	児童生徒	83	17	教職員	79	21
対象者	評価4 (%)	評価3 (%)															
学校関係者	88	12															
保護者	76	24															
児童生徒	83	17															
教職員	79	21															
<p>○生徒が88%(88%)、保護者が76%(72%)、学校関係者が83%(100%)と生徒は、給食や家庭での食事を好き嫌がなく食べていると回答。 □教職員は、79%(79%)であった。 ◇数値が徐々に向上している。学校での栄養教諭と連携した食育教室の効果が現れてきているものとする。今後もこの取組を継続し食に関する実践力を高めていきたい。</p>																	

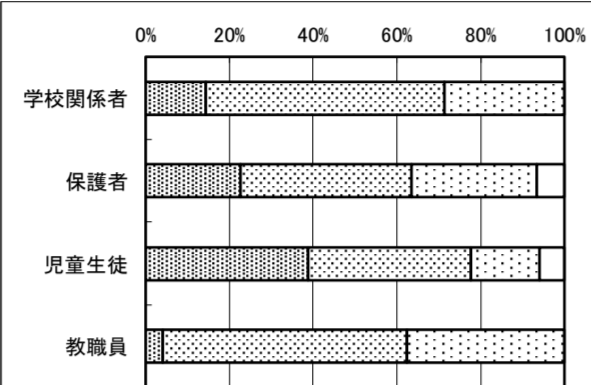
12	心身ともに健康な生活	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)															
<p>生徒は、心身ともに健康な生活を送ることができている。</p> <table border="1"> <caption>心身ともに健康な生活の割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>評価4 (%)</th> <th>評価3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係者</td> <td>95</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>100</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>88</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	評価4 (%)	評価3 (%)	学校関係者	95	5	保護者	91	9	児童生徒	100	0	教職員	88	12
対象者	評価4 (%)	評価3 (%)															
学校関係者	95	5															
保護者	91	9															
児童生徒	100	0															
教職員	88	12															
<p>○生徒が95%(92%)、保護者が91%(87%)、学校関係者が100%(100%)と生徒は、心身ともに健康な生活を送ることができていると回答。 ▲教職員は、88%(92%)である。 ◇生徒、保護者、教職員ともに概ね健康な生活を送ることができているという評価であるが、心配される状況の生徒もいる。教職員の評価が下がったのも、家庭での携帯端末利用時間の増大を懸念したためであるとする。家庭と連携を図りながら規則正しい生活習慣の確立に取り組んでいきたい。</p>																	

令和2年度下期 学校評価書	稜南中学校	No.4
---------------	-------	------

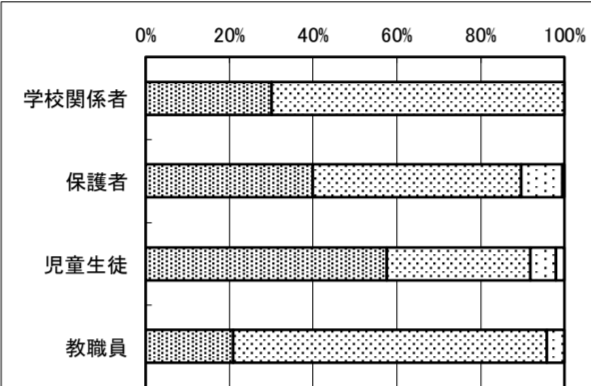
13	運動について	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)															
<p>生徒は、体育や部活動で体力づくりに取り組んでいる。</p> <table border="1"> <caption>運動の割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>評価4 (%)</th> <th>評価3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係者</td> <td>88</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>75</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>91</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	評価4 (%)	評価3 (%)	学校関係者	88	12	保護者	75	25	児童生徒	91	9	教職員	100	0
対象者	評価4 (%)	評価3 (%)															
学校関係者	88	12															
保護者	75	25															
児童生徒	91	9															
教職員	100	0															
<p>○生徒が88%(88%)、保護者が75%(86%)、学校関係者が91%(91%)と生徒は、体育や部活動で体力づくりに取り組んでいると回答。 ○教職員は、100%(100%)であり、生徒や保護者より高い評価である。 ◇3年生が部活動を引退し、運動の機会が減ったことが保護者の数値低下に現れていると考えられる。部活動未加入生徒も一定数いることから教科体育やニュースポーツなど全般的な取組を継続し、自ら運動に親しむ習慣作りを図っていきたい。</p>																	

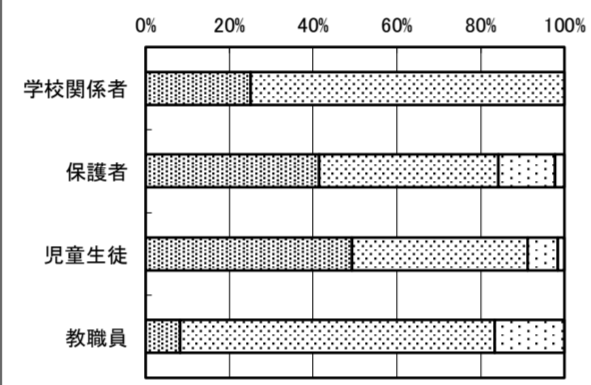
14	家庭・地域との連携	学校から(%)は、評価4と評価3の割合)															
<p>稜南中では、地域と連携した教育活動ができていると思う。</p> <table border="1"> <caption>家庭・地域との連携の割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>評価4 (%)</th> <th>評価3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係者</td> <td>94</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>82</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>100</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>79</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	評価4 (%)	評価3 (%)	学校関係者	94	6	保護者	82	18	児童生徒	100	0	教職員	79	21
対象者	評価4 (%)	評価3 (%)															
学校関係者	94	6															
保護者	82	18															
児童生徒	100	0															
教職員	79	21															
<p>○生徒が94%(94%)、保護者が82%(94%)、学校関係者が100%(92%)と稜南中は、地域と連携した教育活動ができていると回答。 ▲教職員は、79%(100%)%である。 ◇コロナの影響で地域との関わりが少なくなっている。今後新しい生活様式を踏まえた地域との連携スタイルについて検討していく必要がある。</p>																	

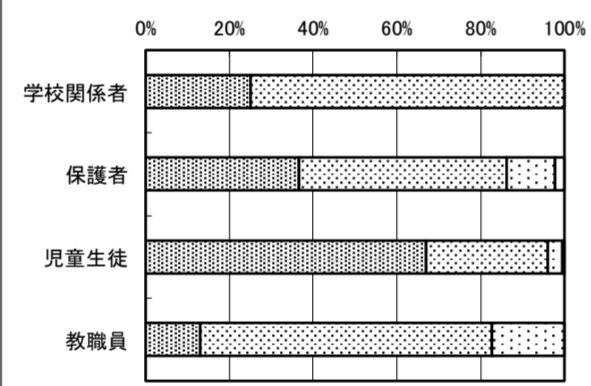
<p>15 学校情報の定期的発信</p> <p>稜南中は、学校だよりや学級通信、ホームページ、学校メール等で情報発信を行っている。</p> 	<p style="text-align: right;">学校から(%)は、評価4と評価3の割合)</p> <p>○生徒が95%(94%)、保護者が95%(94%)、学校関係者が100%(100%)と稜南中は、学校だより、学級通信、HP、学校メール等で情報発信を行っていると回答。 ○教職員は、100%(100%)である。 ◇教職員は、可能な情報発信は、概ねできているという評価をしている。今後も積極的な情報発信に努めていく。</p>
---	--

<p>16 キャリア教育について</p> <p>生徒は、自分の将来を考え、目標を立てて取り組むことができている。</p> 	<p style="text-align: right;">学校から(%)は、評価4と評価3の割合)</p> <p>○生徒が78%(76%)、保護者が64%(57%)、学校関係者が71%(100%)と生徒は、自分の将来を考え、目標を立てて取り組むことができていると回答。 ▲教職員は、63%(75%)であり、上期と比較して12%低下している ◇コロナウイルス感染症の影響で職場体験等が実施できなかったが、代替として職業講話等を行い進路への意識付けを行った。教職員数値が低下した理由としては教育課程再編成によるキャリア教育の指導時間の不足が考えられる。今後受験シーズンと絡めたキャリア教育の充実を図っていく必要がある。</p>
--	--

令和2年度下期 学校評価書	稜南中学校	No.5
---------------	-------	------

<p>17 生徒を大切にされた教育</p> <p>私は生徒を大切にされた教育を行っていると思う。</p> 	<p style="text-align: right;">学校から(%)は、評価4と評価3の割合)</p> <p>○生徒が92%(94%)、保護者が92%(88%)、学校関係者が100%(100%)と生徒を大切にされた教育を行っていると思うと回答。保護者評価で上期と比較して4%の向上が見られた。 ▲教職員は、96%(100%)である。 ◇一人一人の生徒を大切にされた教育を行うことは、学校教育の基本である。そのためにはそれぞれの生徒にしっかり向き合うとともに、指導や助言・支援等をする場合には、それぞれの生徒が指導や助言等のねらいをしっかりと理解できるように丁寧な対応を一層心がけていくようにする必要がある。その時間確保のためにも働き方改革の更なる推進を図っていく。</p>
---	---

<p>18 教師への相談</p> <p>私は生徒に教育相談等きめ細やかな指導ができていると思う。</p> 	<p style="text-align: right;">学校から(%)は、評価4と評価3の割合)</p> <p>○生徒が91%(92%)、保護者が84%(84%)、学校関係者が100%(100%)と生徒に教育相談等きめ細やかな指導ができていると回答。▲教職員は、83%(88%)である。 ◇教師への相談の充実が課題の早期発見や信頼関係づくりにつながっていくと考える。生徒の情報を全職員で共有しながら一人一人に応じた対応について一層心がけていくようにする必要がある。</p>
--	---

<p>19 適切な評価評定</p> <p>私は、生徒の実態をよく把握し、適切な評価・評定ができている。</p> 	<p style="text-align: right;">学校から(%)は、評価4と評価3の割合)</p> <p>○生徒が96%(98%)、保護者が86%(81%)、学校関係者が100%(100%)と生徒の実態をよく把握し、適切な評価・評定ができていると回答。 ▲教職員は、83%(88%)であり、上期評価と比較して5%低下している。 ◇教職員の評価が下がってきているが、より精度の高い評価基準のもと生徒や自身の評価をしっかりと行う意識が高まってきたためと考えられる。来年度からは新学習指導要領の完全実施となる。適切な評価評定ができるよう校内研修の充実を図っていく。</p>
---	--